

教団新報

定 価 1 部 144 円 (本 体 133 円 予 共 206 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 予 共 5,150 円
紙 代 の み 3,600 円
振 替 00140-9-145275
本 紙 を 購 読 ご 希 望 の 方 は 、 前 金 を
そ へ て 、 お 近 く の キ リ ス ト 教 書 店
へ お 申 し 込 み 下 さ い 。
教 会 の 購 読 料 は 負 担 金 に 含 み ま す 。

発 行 所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東 京 都 新 宿 区 西 早 稲 田 2-3-18
日 本 キ リ ス ト 教 会 館 内 電 話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
URL http://uccj.org
発 行 人 長 崎 哲 夫
編 集 主 筆 渡 邊 義 彦
印 刷 所 株 式 会 社 き か ん し

日本基督教団
主 催

東日本大震災国際会議

原子力安全神話に抗してーフクシマからの問いかけ



犠牲のシステムを 超えて

ーミナマタ・ヒロシマ・フクシマー

日本には、「国家教」と言うべき、国家に抗わず、国家を神のように崇める社会がある。戦後日本は、広島、長崎を経て、平和国家、文化国家として生まれ変わったように思えた。しかし、この3年にわたって、誰一人として責任を取り、身を処するということ

3・11から3周年は、第一次世界大戦から百年である。第一次世界大戦は、国家と科学が、どのような悲劇を人類史の中にもたらすかを鮮明にした。国家と科学という、第一次世界大戦が人類史に問いかけた問いが、福島において、原子力という形で現れ、敗北に至ったと理解している。しかし、現在の日本は、新しい

また、原子力村は、過疎化が進む地域経済、人口の流出等、様々な問題を抱えた地方にも組み込まれ、中央と地方が一体をなしながら、安全

その道は必ず、東アジアの安全共同体へと通じる。韓国、中国にお

（文責・新報編集部）

3年前、原発事故が起きて2週間後、相馬市に行き、南相馬から避難して来た方と交流を持った。人々の苦しみに思いを巡らし、ローマ人への手紙第8章18〜28節を受け止めた。虚無の力の中で、呻き声を挙げる人とは、今日の犠牲のシステムにおいて虐げられた人々であるとも言える。私たちが明るい光を求めて行く生き方の果てに福島を迎えたということに対する重大な警鐘ではないか。

3・11から3周年は、第一次世界大戦から百年である。第一次世界大戦は、国家と科学が、どのような悲劇を人類史の中にもたらすかを鮮明にした。国家と科学という、第一次世界大戦が人類史に問いかけた問いが、福島において、原子力という形で現れ、敗北に至ったと理解している。しかし、現在の日本は、新しい

また、原子力村は、過疎化が進む地域経済、人口の流出等、様々な問題を抱えた地方にも組み込まれ、中央と地方が一体をなしながら、安全

その道は必ず、東アジアの安全共同体へと通じる。韓国、中国にお

（文責・新報編集部）

記念講演

姜尚中 聖学院大学全学教授・東京大学名誉教授

記念講演に550名参加



2日目からは、押川記念ホールに会場を移して、英、

ギア政策転換のカイロスー

文明・国家・社会の変革を

信じた『傲慢』の罪、(2)豊

（永井清陽報）

「原子力安全神話に抗してーフクシマからの問いかけ」を主題にした日本基督教団主催、東日本大震災国際会議が、3月11日から4日間、東北学院大学（仙台市）で開催された。

「教団初の国際会議」（石橋秀雄・教団総会議長）に、海外教会から10カ国（台湾、韓国、スイス、米国、ニュージーランド、カナダ、英、独、インド、仏領ポリネシア）の代表61人が参加した。

3月11日午後2時、ラーハウザー記念礼拝堂での東日本大震災3周年記念礼拝に500人が出席し、4日間の国際会議が始まった。引き続き礼拝堂で、姜尚中・

聖学院大学教授の記念講演「犠牲のシステムを超えてーミナマタ・ヒロシマ・フクシマ」が行われ、550人が聞き入った。

は、『国家教』、国家を神のごとく崇める社会がある。この3年間、だれ一人責任を取り、身を処することをしていない。戦後の歴史の中で、国家の責任が明らかになったことがあるだろう

韓国、中国、日本語4カ国語の同時通訳で実質的な会議がスタートし、最大時250人が出席した。東北学院大学、会津放射能情報センター、アジア学院の報告

上智大学教授の基調講演「原子力発電の非倫理性と宗教からの声ー福島原発災害後の苦難の中から」が行われた。宗教学者の島蘭氏は、カトリック、ドイツ、仏教など、宗教各派の原発決議を紹介し、「原発問題は、何よりも倫理の問題である」ことを強調し、原発の非倫理性を指摘した。

3日目午前には、「エネルギー政策転換のカイロスー文明・国家・社会の変革を

（永井清陽報）

「七つの罪 原発・核兵器廃棄」

大 会
宣 言

キリスト教神学の視点から福島原発事故を考える」と題した神学講演が行われた。近藤勝彦・前東京神学大学学長は、「文明と倫理の問題の多くは、特定の一つの回答を唯一絶対と見なすことは出来ない。聖書の信仰は、技術的な停滞を要求するものではなく、信仰は、非科学的なロマン主義を標榜するものでもない」と前置きして、「フクシマ後直面する3点として、(1)核廃棄物の処理、最終処分場という難問を将来の英知に押し付ける責任回避、(2)核廃棄物処理と原発の即時停止が可能にならない限り、原発は本格的実行段階に到達しなかつたのではないか、(3)フクシマを忘却の中に葬るか、歴史的事件として、文明・国家・社会の変革を

図るのか」を指摘し、「歴史的決断の時を聖書では力イロス（時満ちた時）」と言った。フクシマ経過後の日本人が、世界文明への警鐘を鳴らすことは、日本のキリスト者の重大な責任である」と講演を結んだ。

2、3日日夜、非公開で大会宣言案が論議され、最終日、4日目午前、大会宣言案が配布されて全体会議が始まった。大筋の異論は出なかつたが、語句の挿入、修正要求が相次ぎ、確定後の大会宣言は、後日、発表される。

異論の出なかつた大会宣言の重要部分は、「福島事故の根源に、人間の根源的な罪（創世記3章）がある。(1)原子力を自らの技術で完全に制御、管理出来ると過

神学講演

近藤勝彦 東京神学大学名誉教授・前学長

エネルギー政策転換のカイロス
ーキリスト教神学の視点から福島原発事故を考えるー

私たちキリスト者は、日本のみならず、世界の問題でもある福島原子力発電の事故をどのように受け止め、信仰の歩みを進めていくべきで



あろうか。キリスト教信仰と神学の使命には、どのような時代や文明の中でも、主イエス・キリストの十字架の死による神の救いを宣べ伝える伝道が、礼拝と共に中心的な位置にある。その上で、教会は世界文明と社会に対し形成的、また批判的に奉仕する課題を負うことになる。それゆえ、教会は必要に応じて「キリスト教世界政策」を科学技術の問題に関しても提示することを使命の中に持つと言える。

原子力発電に関して、私は三つの点を指摘したい。

一つは、「核廃棄物」の処理が過剰な負担を将来に負わせる問題である。放射性廃棄物の最終処分場を問題とする原発は、「未完成な技術」と言わざるを得ない。核廃棄物処理の解決は、しばしば「未来の人類の英知」に託すと言われてきた。将来に希望を置くこと自体は、キリスト教信仰からして否定すべきではないが、今解決できない特定問題を未来の人類の英知に押し付けて、エネルギー政策の基軸にすることは、信仰と神学の観点から見て重大な誤りになる。

もう一つは、現実には「偶然性」の中にあるという問題である。アクシ

デントが起ることを本質的に持つ世界と人間にとって、事故の予測は決して完璧ではなく、予測不可能な事故があるのが現実である。また、「人為的なミス」は、きわめて人間的な現象である。場合により「甚大な被害」を及ぼす技術は、本質にミスを犯す性格を含む人間には、適正とも、現実的とも言えない。人間の知のあり方として、私たちの知るころは、常に一部分である。絶対的な確実性を必要とするものを作動させ、確実性があるかのように主張するのは、「傲慢の罪」を意味する。も

っと人間の知に対する謙遜な認識が必要である。最後は、原発事故が既に起きた「歴史的な事件」としてどう受け止めるべきかである。今度の原発事故の扱い方が、歴史の意味を汲むことなく、済し崩し的に現状回復に向かい、その追認に終始するなら、日本は歴史の個性を喪失し、国際世界の中で自己喪失の状況に陥るであろう。

キリスト教は歴史的宗教である。それは成立が歴史的であつただけではなく、主イエス・キリストにおける神の啓示が「歴史的啓示」であり、主イエスの歴史的出来事が信仰の中核にあり、神の国の時間への到来を信じる意味で、一段深い意味で歴史である。歴史的な時期を画する決断を、新約聖書は「カイロス」（時満ちた時）という用語で言い表した。決断はカイロスの中でしなければならず、カイロスが過ぎ去ればできな

くなる。原発をめぐる政策転換の決断は、すべての原発が完全に廃炉に至るには永い時間が掛かるにしても「方向の決断」としては「カイロス」の中にあつてなされなければならない。チェルノブイリ、福島事故を通して、原発依存的な文明への警鐘は鳴り続けている。この転換の決断ができなければ、日本は原子力問題に関して「唯一の被爆国」というよりも、放射能汚染水を海に出し続ける国際社会の加害国として「世界文明への警鐘」を鳴らす資格はないであろう。「世界文明への警鐘」を鳴らすことは、福島原発事故を体験した日本国民の、とりわけ日本のキリスト者の重大な責任である。

(文責・新報編集部)

海外からの報告

原子力問題取り組みを報告

国際会議3日目、午前11時以降には海外教会の報告が行われた。《午前11時、押川記念ホール》連帯福音宣教会、台湾基督長老教会(《午後2時、押川記念ホール》大韓イエス教長老会、スイス・プロテスタント教会連盟、第1会議室)《合同メソジスト教会、第2会議室》《ベルリン宣教会、第3会議室》カナダ合同教会》



10 力国代表、61 名が参加

ドイツ 《連帯福音宣教会EMS》
台湾 《台湾基督長老教会》

連帯福音宣教会からは、ドルテ・シーデントプフ医師が、自身が属する核戦争防止国際医師の会ドイツ支部が、チェルノブイリの事故後に行った、核兵器と原子力の廃絶運動を紹介した。主に、事故の影響を強く受けたバールーシの状況を報告した。事故後、様々な疾病が増えたこと、また、現在でも続けられている支援活動に触れ、「私たちは後の世代から世界を借りているにすぎず、キリスト者として、世界と生命と自然を保護する責任がある」と告げた。

台湾基督長老教会からは、環境保全に関する部署でリーダーとして働いている林俊義博士が報告した。今日の世界が、「21世紀型の権威独裁主義」とも言える、強欲資本主義によって支配され、科学、政治、経済のあるべき姿から離れ、倫理が失われていると語った。表面的なものではないシステム全体の変革の必要性を述べた上で、「放射能貧困、格差といったものが押し寄せて来ている中で、キリスト者は聖書の教えとビジョンに基づいて、何が必要なのかを考えて行かなければならない」と述べた。

大韓イエス教長老会(統合からは、アン・ホンテク牧師が、韓国のキリスト者たちが始めた「核の無い世界のための韓国づくり」という運動を紹介した。折衝会、平和ウォーキング、コンサート、福島の子どもたちの避難キャンプ等の活動の他、日本、韓国が計画している原発の海外輸出を止めるべく、原発建設会社を相手に訴訟を起こしたこと等を報告した。また、現在、韓国において、原発新設を前提に送電線の拡張が行われていること、建設が進む村の人々の苦しみに触れた上で、「キリスト者としては抑圧されている人たちと共にいるべき」と語った。また、釜山のWCC総会で審議できなかった核なき世界のため

韓国 《大韓イエス教長老会》
スイス 《スイス・プロテスタント教会連盟》

の声明文が決議されることを願っていると告げた。スイス・プロテスタント教会連盟から、オットー・シェーファー牧師が、スイス・プロテスタント教会の取り組みの中から、2008年に発行された『エネルギー倫理』について紹介した。エネルギーを巡る現在の状況を省察し、古いエネルギーの時代は終わりを迎えるとし、石油、天然ガス、化石燃料、原子力といった熱エネルギー産業システムからの転換について触れた。また、「自由」、「持続可能性」、「正義」、「参加」、「平和」という5つの価値基準とその適用のための11のルールを紹介し、証人としての教会の役割は重要な側面があることを告げ、

ドイツ 《ベルリン宣教会》

「私たちは物質生活の課題を乗り越えた深みに到達し、生を変える神の聖霊に、驚愕させた。『党の仲間をも驚かせたメルケル政権が、フクシマが行ったのは「最新の技術を持つ日本で起きた福島の転換を報告した。2001年、シュレーダー政権(社会民主党・緑の党連立)は「原発の段階的全廃」を決定して世界を驚かせたが、05年に登場した東独出身のメルケル首相は、その2期目、09年、「稼働年数の延長」を決め、産業界寄りに右転換していた。そのメルケル首相が、「平和」、「正義」、「参加」、「可能性」という5つの価値基準とその適用のための11のルールを紹介し、証人としての教会の役割は重要な側面があることを告げ、

「私たちは物質生活の課題を乗り越えた深みに到達し、生を変える神の聖霊に、驚愕させた。『党の仲間をも驚かせたメルケル政権が、フクシマが行ったのは「最新の技術を持つ日本で起きた福島の転換を報告した。2001年、シュレーダー政権(社会民主党・緑の党連立)は「原発の段階的全廃」を決定して世界を驚かせたが、05年に登場した東独出身のメルケル首相は、その2期目、09年、「稼働年数の延長」を決め、産業界寄りに右転換していた。そのメルケル首相が、「平和」、「正義」、「参加」、「可能性」という5つの価値基準とその適用のための11のルールを紹介し、証人としての教会の役割は重要な側面があることを告げ、

「私たちは物質生活の課題を乗り越えた深みに到達し、生を変える神の聖霊に、驚愕させた。『党の仲間をも驚かせたメルケル政権が、フクシマが行ったのは「最新の技術を持つ日本で起きた福島の転換を報告した。2001年、シュレーダー政権(社会民主党・緑の党連立)は「原発の段階的全廃」を決定して世界を驚かせたが、05年に登場した東独出身のメルケル首相は、その2期目、09年、「稼働年数の延長」を決め、産業界寄りに右転換していた。そのメルケル首相が、「平和」、「正義」、「参加」、「可能性」という5つの価値基準とその適用のための11のルールを紹介し、証人としての教会の役割は重要な側面があることを告げ、

「私たちは物質生活の課題を乗り越えた深みに到達し、生を変える神の聖霊に、驚愕させた。『党の仲間をも驚かせたメルケル政権が、フクシマが行ったのは「最新の技術を持つ日本で起きた福島の転換を報告した。2001年、シュレーダー政権(社会民主党・緑の党連立)は「原発の段階的全廃」を決定して世界を驚かせたが、05年に登場した東独出身のメルケル首相は、その2期目、09年、「稼働年数の延長」を決め、産業界寄りに右転換していた。そのメルケル首相が、「平和」、「正義」、「参加」、「可能性」という5つの価値基準とその適用のための11のルールを紹介し、証人としての教会の役割は重要な側面があることを告げ、

カナダ 《カナダ合同教会》

カナダからの報告は、カナダ合同教会のメアリー・ルー・ハリー氏によってなされた。日本が直面している核燃料問題に対して、カナダ合同教会の方針について、このプレゼンテーションで分かち合いたいと報告が始められた。カナダ合同教会の原子力問題へのアプローチは、地

球の一体性への責任、正しい国際秩序、生活スタイルの転換、環境破壊への全人的責任、未来世代への権利の保護、地球の持続能力への注視、生物多様性の尊重、非暴力、当局および企業の責任追及等の視点に立つてなされているということであった。

(小林信人報)

教会で国民の50%を超えるドイツでは、教会のメッセージが届き易いと語るが、シュレーダー政権の「将来の段階的削減」に対し、メルケル首相の「8年後の全廃」が容易でないことは認

めている。「社会の中での教会の位置と影響力がますます問われて行く」とし、「倫理のルールから離れてはいけない」ことを力説した。

(永井清陽報)

アメリカ 《合同メソジスト教会》

合同メソジスト教会(UMC)、ジョン・ヒル氏(教会・社会委員会)は「脱原子力の未来へ生きるために」と題し報告した。

アメリカ教会は、原発のみならず科学技術に対し、どちらかに決めかねている居心地の悪さを抱えている。「教会の公式声明と個々の教職、信徒の行動にギャップがある」。特に原子力エネルギー問題によって科学と宗教の関係が複雑になり科学的合意形成と倫理的見解を明らかにすることの重要性が増しているとした。

近年の「気候変動危機に訴え原発推進を強調する」傾向に、個人、市場の傲慢を絶えず注意喚起し、互いが関係の中で生きていることを謙虚に認め合うこと、

教会は、統計、科学だけをベースにするのではなく、教会固有のストーリーで議論し、将来に対する恐怖ではなく、聖金曜日、イースターにおける希望を語ることができる。神においてゲームオーバーはあり得ない」とした。教会は、被造世界の保全ため呼びかけられており、正義、持続可能性を明確にし、新しいあり方を示さなくてはならない。そのようにして言葉と行動を一致させて、目覚めていることが必要であることが語った。

(新報編集部報)

日本基督教団第 38 総会期第 4 回常議員会において可決した原発関連議案及び声明文

第 38 総会期第 4 回常議員会
議事第 22 号

日本基督教団に所属する諸教会・伝道所に対して、脱
原発への働きに参与することを呼びかける件

提案者 議長
議 案

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災により起こった東京電力福島第一原子力発電所事故を受け、第 38 総会期常議員会は、日本基督教団に所属する教会・伝道所に対して、脱原発のために祈りを合わせ、その働きに参与することを呼びかける。
提案理由
2011 年に起こった東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能汚染の問題は、今もなお深刻さを増しております。

この間、2012 年 5 月 5 日に北海道電力泊原子力発電所 3 号機の定期点検に伴う稼働停止によって、日本中すべての原発が停止しました。しかし日本国政府は「国民の生活を守る」との理由により、同年 7 月 1 日に関西電力大飯原子力発電所を再稼働した（現在は定期点検のため停止中）ほか、今なお新たな原発再稼働の計画が撤回されることはあ

りません。また、青森県六ヶ所村の核燃料サイクル施設や福井県敦賀市の高速増殖炉「もんじゅ」など、その安全性が疑問視され、大小様々なトラブルが頻発する中にあってもその計画・運転が続けられている施設が存在します。

日本はこれまで、「絶対安全」との言葉をもって原子力政策を推進してきました。しかし、この「安全神話」は崩壊し、今私たちは目に見えない放射能被曝の恐怖の中に生きるものとなり、また、日本は、放射能を海や空にまき散らす、世界に対する加害者となりました。福島第一原子力発電所爆発事故発生から 2 年 11 か月が経過した今、あらためて私たちは深い痛みをもってこの現実を受けとめたいと思います。

日本基督教団では、2012 年 3 月 27 日に石橋秀雄教団総会議長名で「福島第一原子力発電所事故に関する議長声明」を出し、「すべての原子力発電所の稼働を停止し、廃炉を前提とした処置が取られることを求めつつ、教団に属するすべての教会において祈りを合わせていただきたいと願います。」と訴え、2013 年 3 月 11 日にも「福島第一原子力発電所事故三年目を迎えるに際しての議長声明」を発表しました。また、一昨年と昨年の二度にわたって在日大韓基督教会総会長との連名で、脱原発を求める「平和メッセージ」を発表したほか、各教区においても、原発廃止を求める声

かけー」を開催する。

1. 東京電力福島第一原子力発電所事故によって明らかにされたこと。
これまで、原子力発電所は原子力の平和利用という名目で推し進められ、安全神話によってその危険性が隠蔽されていた。それは、技術進歩への安易な依存であり、人間の知恵の限界への洞察の欠如がもたらしたものであった。

敗戦後、日本では経済発展を豊かさの指標と考え、エネルギーの大量消費が求められ、都市化によって地方との格差が生まれた。原子力事業は経済発展を支える国策の一つとして推奨されてきた。その中で原子力事業は権益を生み、地方へのばらまきにより、原子力発電所の設置が進められた。そこでは豊かさの追及が他者への負担を強いることが黙殺されてきた。

2. 東京電力福島第一原子力発電所事故によってもたらされたこと。
爆発を伴う事故による放射能汚染は解消することのできない破壊をもたらした。避難移住が強制され、周辺を含めて生活と経済活動が失われたばかりでなく、喪失感と将来への不安と重圧をもたらした。さらに被害への意識の違いが広い範囲で偏見と差別を生み、深刻な不信感をもたしている。それが被災者を一層窮地に置くこととなっている。子供たちの心身への影響ははかり知ることができない。生態系と自然環境への影響もはかり知ることができない。

3. 原子力発電所の再稼働と新規の原子力発電所建設に反対し、廃炉へと向かうことを求める。
東京電力福島第一原子力発電所事故原因の究明も途上であり事故処理も見通しが立たないままである。除染は十分な成果を上げることができず、さらに大量の汚染水の漏えいの問題は深刻な事態を招いている。

現状ではすべての原子力発電所は危険性において福島第一原子力発電所と同じであるといえる。また、核燃料サイクル技術も放射能廃棄物最終処分の技術も確立されておらず、その見通しが立つ確証もない。放射性廃棄物の蓄積は次の世代への危険性を増大させ続ける。

それゆえ、再稼働した大飯原子力発電所の停止を求め、停止している原子炉の再稼働に反対する。また新規の原子力発電所建設に反対する。さらに、すべての原子力発電所では廃炉に向けた手続きと作業が始められ、進められなけ

明の発表や決議がなされております。

私たちが核によらない世界を求め、そのような世界を作り出す働きに参与することは、例えば電力会社で働いている方たちを排除しようとするものではありません。この世において様々な働きに召し出され、遭わされる一人一人として、誰の生命であっても守られ、生活が支えられることを求めるものです。生命よりも経済を優先し、特定の地域に核を押し付けてきた差別としての構造、そして今現実生きる生命と未来の生命を脅かし続ける原子力発電所をはじめとする核エネルギー施設の存続は、「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」と教えられた主イエス・キリストの教えに従う中で、到底容認できることではありません。

「地とそこに満ちるもの、世界とそこに住むものは、主のもの」（詩編 24 編 1 節）との聖書の言葉に立ち、創造主なる神が造られた世界の保全を委ねられた者として、私たちはすべての原子力発電所の廃炉と、核によらない世界（脱原発）を求めることのために祈りを合わせ、そのような世界を作り出す働きに参与することを願って、本議案を提案いたします。

*大飯原子力発電所再稼働に関する記述について、三役の判断でより正確な表現に改めました。

ればならない。

4. 事故原因が徹底的に解明され、事故に起因するあらゆる被害が調査され、風化することのないようにすべきこと。
事故についてすべての情報が正しく開示され、検証されなければならない。事故によってもたらされた被害の状況の報告や証言は後の世代に伝えられるように工夫され生かされなければならない。
5. 新しい生き方に向かうべきこと。
われわれは核によらない世界と生活の実現のために、新しい生き方へと向かうべきである。

原子力発電所は経済発展と技術革新による豊かさの享受を求めたことの一つの表れである。それは、安全神話、技術の進歩の神話、豊かさへの神話をまもってきた。それらがほころびる中、われわれはその偶像性を見抜き、人間の知恵の限界を真摯に見つめ、神の与えたもうた分に生きることへと向かわなければならない。

われわれはこの世界が神の恵みによる創造世界であることを覚え、この世界を平和と愛に仕えるように管理する責務と、被造物全体に対し本来の秩序と調和した環境を保護する責務を負う。

この被造世界に生きる者は神からゆだねられた恵みがより公平に分配されることを願い、限度を自覚しない消費による生き方から離れなければならない。

そのためにも自らの傲慢の罪を知り、神を知る真に人間的な生き方を求めなければならない。

6. 祈り。
父なる神よ、われらに神が祝福をもって創られた世界に生きる謙虚さを与えてください。

東日本大震災と原子力発電所事故によって被災し、被害者となっている人々に御手の労りと慰めを与えてください。

人々を導く責任を負うものが、この悲慘を受け止め、勇気をもって正しく判断することができますように。
また、被害者のために身をささげて働いている人々が支えられ守られますように。
主よ、われらを正しい道に導き、勇気をもって歩みだすことができる力を与えたまえ。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン。

2014 年 2 月 18 日

原子力発電所の廃止を求める声明

日本基督教団第 38 回総会期
第 4 回常議員会

日本基督教団第 38 回総会期常議員会は以下のように声明する。

「日本国政府は上関原子力発電所はじめすべての原子力発電所の建設計画を撤回し、大飯原子力発電所をはじめ稼働中の原子力発電所の運転を停止し、さらに原子力発電所の廃止と廃炉へと勇気をもって決断することを求める。」

2011 年 3 月 11 日の東日本大地震と津波によって引き起こされた東京電力福島第一原子力発電所爆発事故は大量の放射性物質の拡散による放射能汚染をもたらした。この事故より多くの住民が避難と移住を余儀なくされ生活基盤と生活そのものを奪われた。広範囲にわたる経済活動の影響、将来にわたる健康被害と特に子どもたちの成長への不安をもたらししている。さらに東北地域への偏見と差別をも生み出している。

その後多くの反対にもかかわらず大飯原子力発電所が再稼働し、さらにいくつかの原子力発電所では再稼働のための手続きが進められようとしている。東京電力福島第一原子力発電所爆発事故の経験が生かされることのない方向に向かっている。

日本基督教団は東京電力福島第一原子力発電所の 20 キロ以内に小高伝道所と浪江伝道所を持ち、現在活動の休止を余儀なくされている。

日本基督教団はこれまで、2012 年 3 月 27 日「福島第一原子力発電所事故に関する議長声明」と 2013 年 3 月 11 日「福島第一原子力発電所事故 3 年目を迎えるに際しての議長声明」を発表し、すべての原子力発電所の稼働を停止し、廃炉を前提とした処置が行われることを願ってきた。第 38 回教団総会には「上関原発建設計画の白紙撤回と既存原発の即時停止を日本政府に求める件」、「日本基督教団として脱原発への働きに参与することを確認する件」が提案された。さらに 2014 年 3 月 11 日に日本基督教団東日本大震災国際会議「原子力安全神話に抗してーフクシマからの問い

教師検定試験公告

2014 年秋季教師検定試験を左記の要領で行います。

1、受験要綱の申し込み

受験要綱と教団指定の願書用紙は 160 円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師（A、B、C コースの別も）受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。

2、受験願書の提出

受験願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。

①教区締切 2014 年 6 月 6 日（金）
【教区により締切が異なりますので、教区事務所に確認してください。】

②教団締切 2014 年 7 月 3 日（木）
【各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です。】

*受験料は正教師 1 万 3 千円、補教師 1 万円。

3、正教師「説教」「釈義」の課題テキスト

①旧約 創世記 27 章 18 節～29 節

②新約 ルカによる福音書 13 章 22 節～30 節

4、正教師の「神学論文」の課題

『今日における宣教の課題』に、「特に」をめぐって」という副題をつけ、ご自分の伝道・牧会をふまえて神学的に論述してください。

5、正教師の「組織神学」の課題

『神の似姿』について組織神学的に論述してください。

―聖礼典との関連において―

6、補教師「説教」「釈義」の課題テキスト

①旧約 ミカ書 4 章 4 節～8 節

②新約 マルコによる福音書 3 章 13 節～19 節

*コースによって「説教」「釈義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱でご確認ください。

7、補教師（CⅢ・ⅠⅠ）の牧会学の課題

「牧会学とは何か」について神学的に論述してください。

8、提出物締切について

当委員会への提出締切日は、「説教」「釈義」「神学論文」「組織神学」「牧会学」全て 2014 年 7 月 4 日（金）必着です。

9、学科試験・面接試験について

学科試験は 9 月 16 日（火）、面接は 9 月 17 日（水）、18 日（木）に大阪クリスチャンセンターにおいて実施します。詳細は受験志願者に通知いたします。

不明な点は直接、当委員会へお問い合わせください。

2014 年 4 月 12 日

日本基督教団教師検定委員会

〒169-0005 1

東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31

電話（03）3202-1054 6